

NSG グループ

2025年3月期 通期決算報告

(2024年4月1日～ 2025年3月31日)

日本板硝子株式会社
2025年5月9日

細沼 宗浩

代表執行役社長 兼 CEO

大河内 聡人

執行役常務 CFO

目次

1. 2025年3月期 通期決算概要
2. 2026年3月期 業績予想
3. 米国関税政策の影響
4. 中期経営計画「2030 Vision : Shift the Phase」の進捗状況
5. 欧州の事業環境と施策
6. まとめ

1. 2025年3月期 通期決算概要

連結損益計算書

欧州経済減速の影響が建築用ガラス事業と自動車用ガラス事業において継続。
欧州の経済回復の兆しもあり、売上高および営業利益は通期予想通りに着地

(億円)	1-3月期 (3か月)			通期 (12か月)			通期 業績予想
	2024年 3月期	2025年 3月期	差異	2024年 3月期	2025年 3月期	差異	
売上高	2,198	2,104	△ 94	8,325	8,404	79	8,500
営業利益	38	57	19	359	165	△ 194	160
営業利益率	1.7%	2.7%	+1.0pt	4.3%	2.0%	△ 2.3pt	1.9%
個別開示項目 (純額)	△ 8	△ 27	△ 19	1	△ 52	△ 53	△ 70
個別開示項目後営業利益	29	30	0	360	112	△ 247	90
金融費用 (純額)	△ 78	△ 71	7	△ 282	△ 253	29	△ 250
持分法適用会社に対する 金融債権の減損損失の戻入益	-	-	-	37	-	△ 37	-
持分法による投資利益	14	18	4	51	55	4	50
持分法投資に関する その他の利益	△ 0	-	0	10	-	△ 10	-
税引前利益 (△損失)	△ 35	△ 23	12	176	△ 85	△ 261	△ 110
当期利益 (△損失)	△ 32	△ 42	△ 10	109	△ 135	△ 244	△ 160
純利益 (△損失)*	△ 29	△ 38	△ 9	106	△ 138	△ 245	△ 170
EBITDA	168	177	9	818	658	△ 160	

売上高は、為替影響もあり自動車用ガラス事業および高機能ガラス事業において増加。
営業利益は、建築用ガラス事業と自動車用ガラス事業で欧州経済減速の影響が継続

【売上高および営業利益 (事業別) : 前年度比】

(億円)	売上高	営業利益
建築用	△ 88	△ 155
自動車用	+ 119	△ 37
高機能	+ 66	+ 4
その他	△ 19	△ 6
グループ全体	+ 79	△ 194

欧州でリストラクチャリング費用を計上

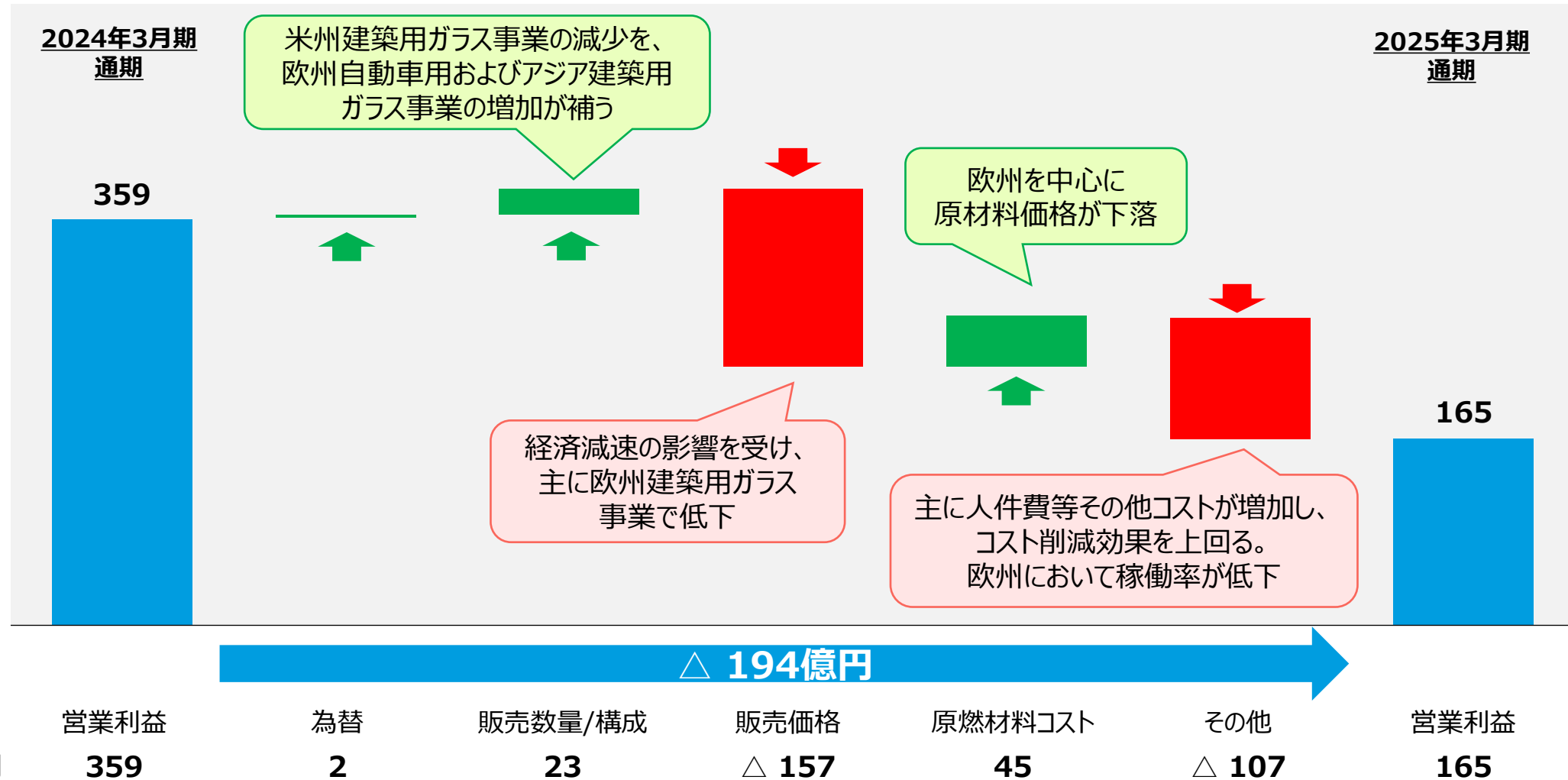
欧米の金利低下に伴い前年度比で減少

前年はロシアJVの売却に伴い、過去に計上した金融債権および投資に対する減損損失の戻入益を計上

*親会社の所有者に帰属する当期利益 (△損失)

営業利益差異分析 (通期)

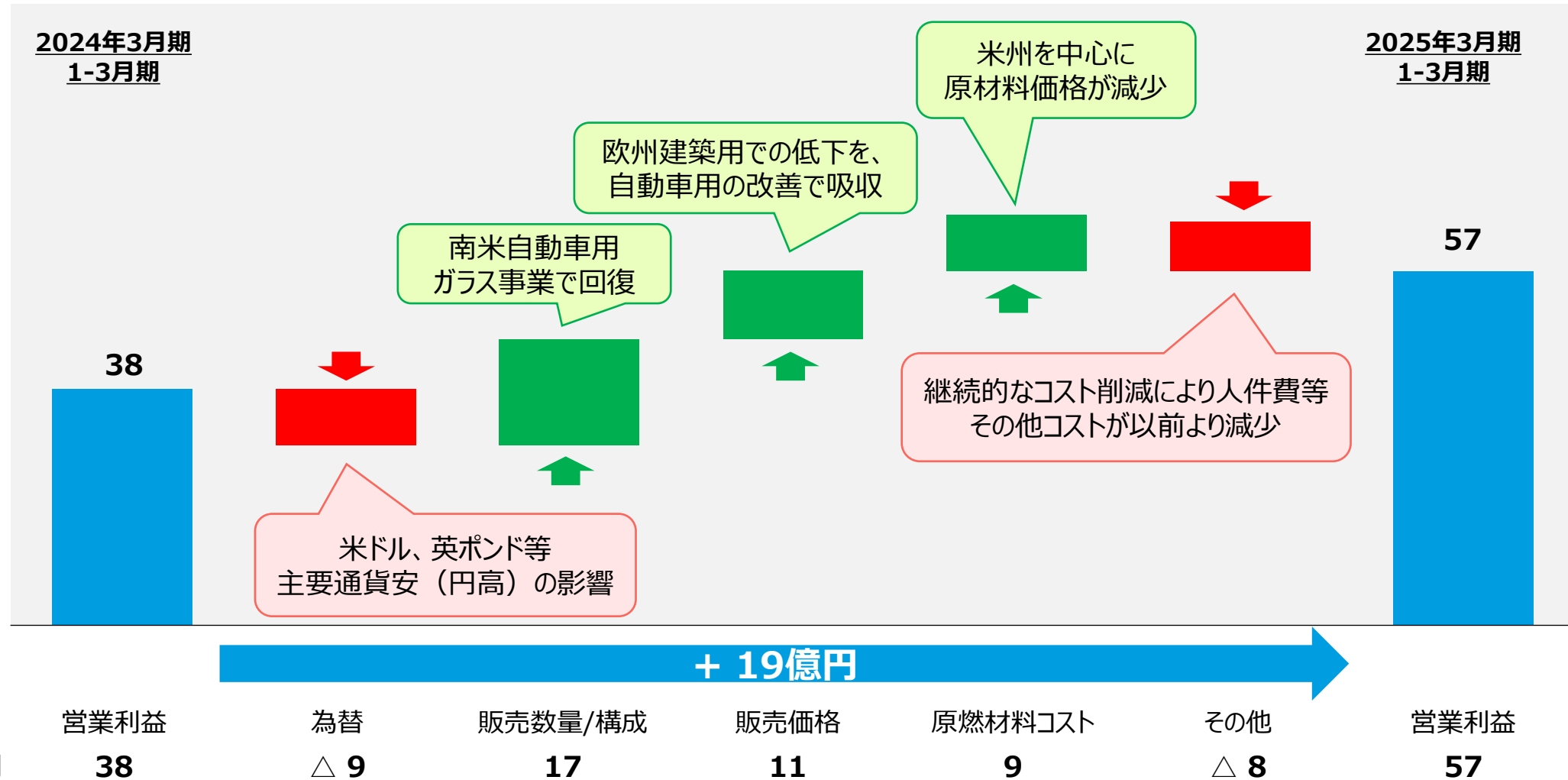
欧州の建築用ガラス事業の販売価格の低下は投入コストの減少により一部軽減。
人件費等の増加によりその他コスト増加も継続



営業利益差異分析 (1-3月期)

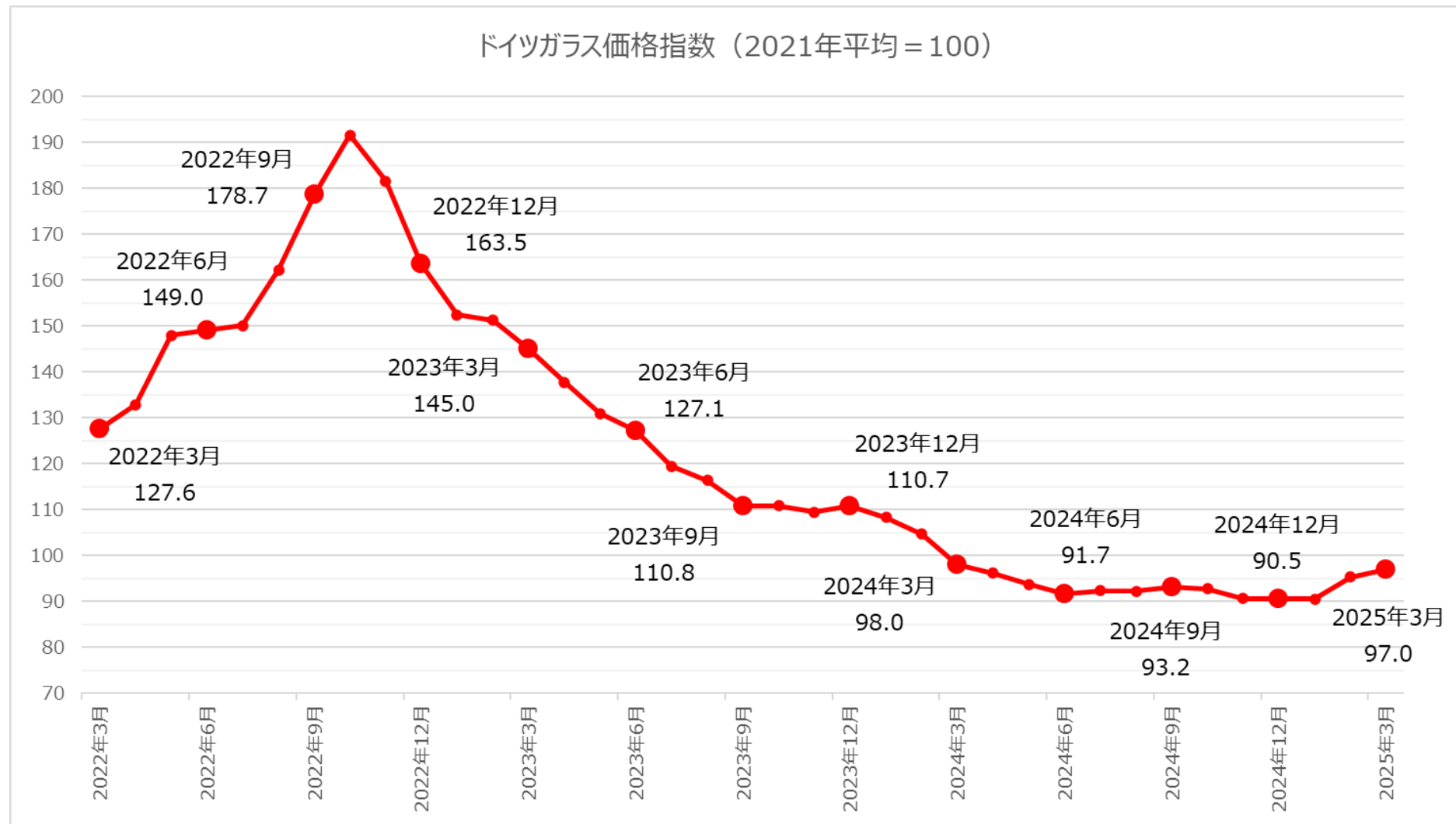
回復の兆し。

アジア、米州での販売数量/構成および価格改善により営業利益は改善



欧州ガラス価格の推移

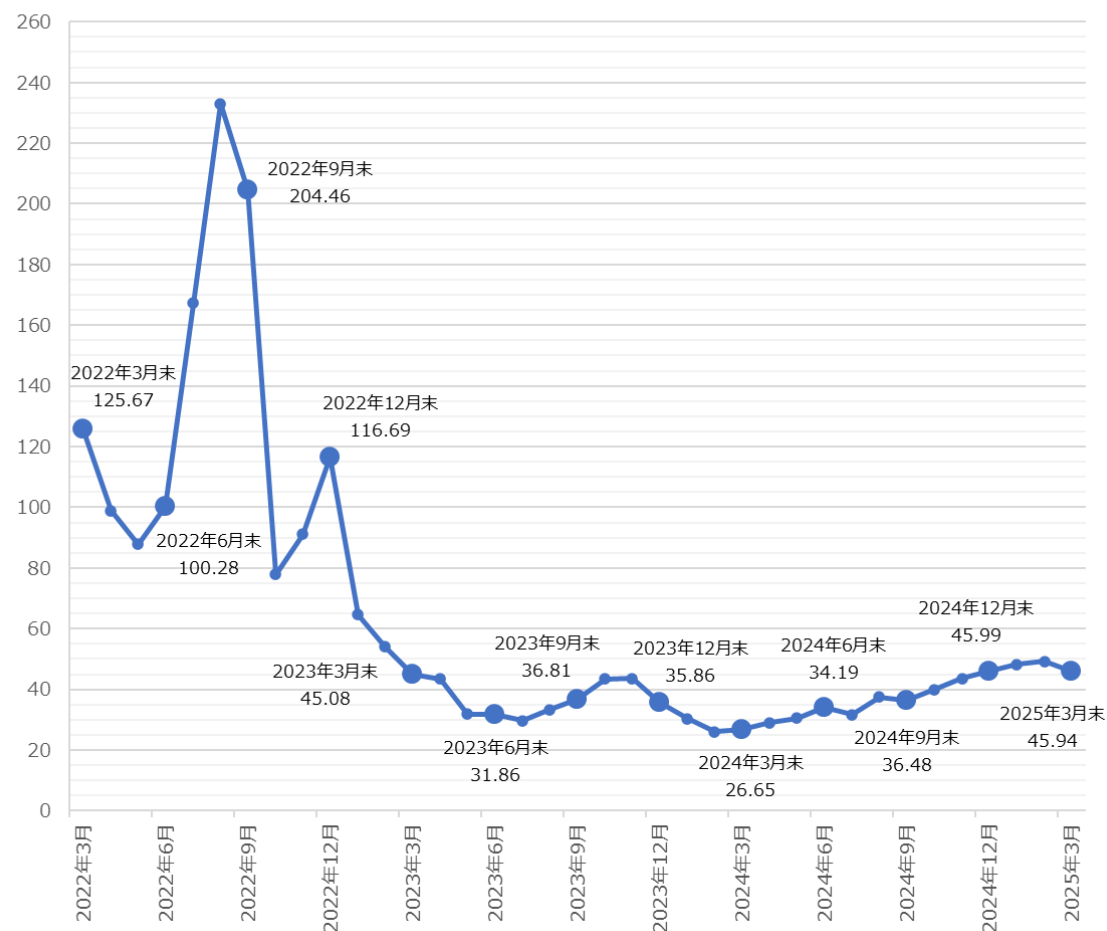
1-3月期は、資産稼働率改善の兆しに伴い上昇



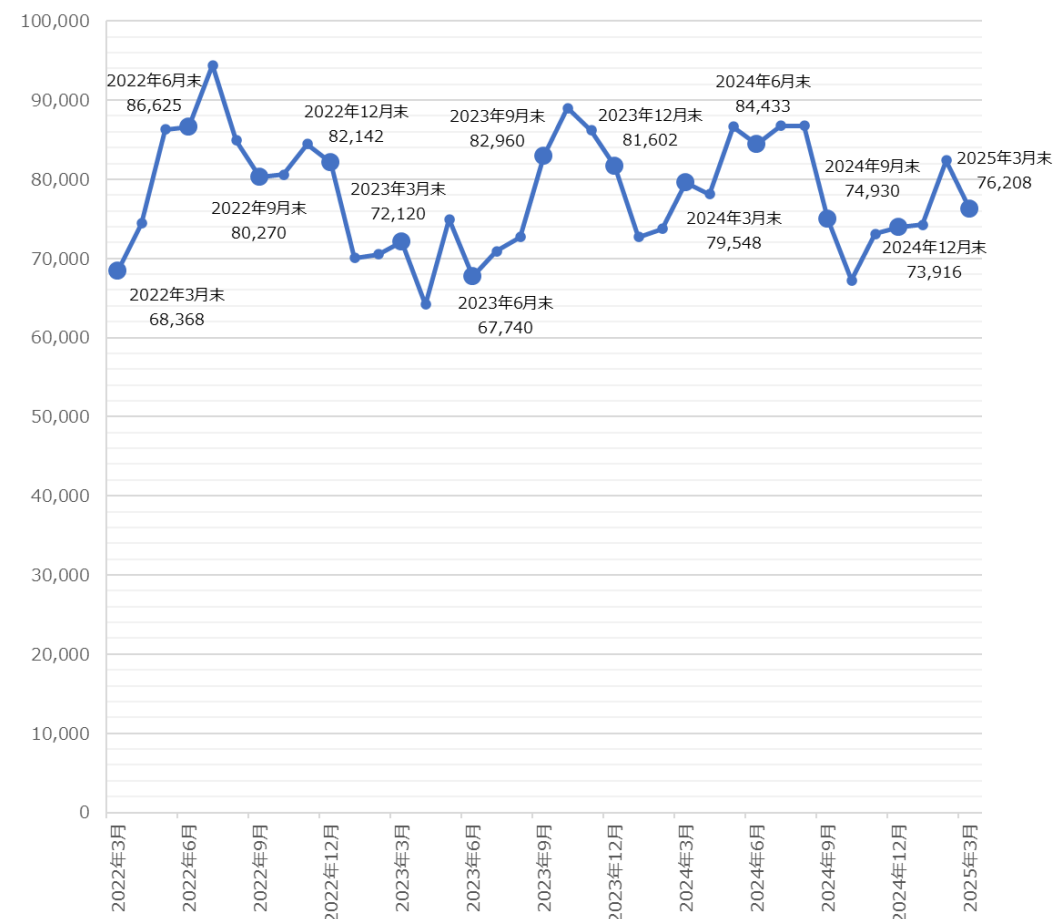
エネルギー価格の推移

欧州天然ガス価格は緩やかに上昇後1-3月期は下落の兆し
日本の重油は依然高値圏で推移

ドイツ天然ガス価格 (EUR/MWh)



日本重油価格 (¥/kl)



連結貸借対照表

自己資本比率は10.5%と前期末比で1.9pt低下。
有利子負債は現預金見合いにより前期末比で若干増加

(億円)	2024年 3月末	2025年 3月末	増減
資産合計	10,076	10,329	253
非流動資産	6,863	7,098	235
流動資産	3,213	3,232	19
負債合計	8,537	8,905	368
流動負債	3,699	4,094	395
非流動負債	4,839	4,811	△ 28
資本合計	1,538	1,424	△ 114
親会社の所有者に帰属する持分	1,243	1,081	△ 162
自己資本比率 (%)	12.3%	10.5%	△ 1.9pt
有利子負債	5,065	5,248	184

主にアルゼンチンにおける超インフレ調整に伴う有形固定資産の増加

主に長期借入金からのシフトおよび現預金見合いで短期借入金が増加

純損失の計上により自己資本比率は10.5%に低下

フリー・キャッシュ・フローがプラスだが、現預金見合いで増加

連結キャッシュ・フロー計算書

フリー・キャッシュ・フローは、営業減益の一方で運転資本の改善により通期でプラス。
引き続きフリー・キャッシュ・フローの改善により有利子負債の削減を目指す

(億円)	1-3月期（3か月）			通期（12か月）		
	2024年 3月期	2025年 3月期	差異	2024年 3月期	2025年 3月期	差異
営業活動によるキャッシュ・フロー	396	592	197	588	524	△ 64
（うち、運転資本の増減）	323	489	166	82	295	213
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 119	△ 28	91	△ 435	△ 424	11
（うち、有形固定資産の取得）	△ 152	△ 169	△ 17	△ 549	△ 547	2
フリー・キャッシュ・フロー	276	564	288	153	100	△ 53
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 352	△ 414	△ 63	△ 481	85	566
現金及び現金同等物の増減	△ 75	150	225	△ 328	185	513
現金及び現金同等物 期末残高				443	630	187

運転資本が1-3月期で大きく改善し、
営業減益の影響を軽減

引き続き戦略投資が増加

前年比で減少だが、プラス

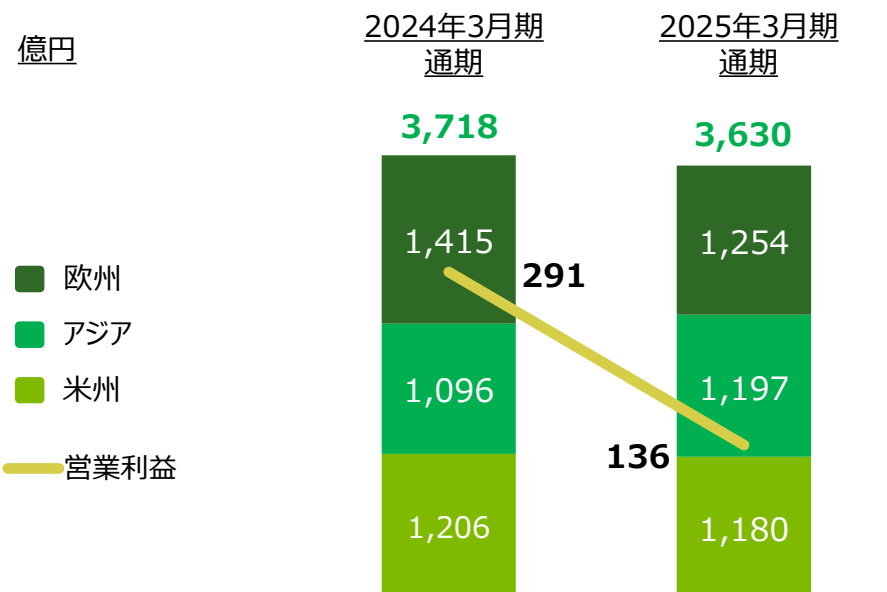
セグメント情報

(億円)	2023年3月期 通期			2024年3月期 通期			2025年3月期 通期			増減	
	売上高	%	営業利益	売上高	%	営業利益	売上高	%	営業利益	売上高	営業利益
建築用ガラス事業	3,659	48%	336	3,718	45%	291	3,630	43%	136	△ 88	△ 155
欧州	1,571	21%		1,415	17%		1,254	15%		△ 162	
アジア	992	13%		1,096	13%		1,197	14%		101	
米州	1,096	14%		1,206	14%		1,180	14%		△ 27	
自動車用ガラス事業	3,547	46%	41	4,176	50%	113	4,294	51%	77	119	△ 37
欧州	1,502	20%		1,747	21%		1,765	21%		18	
アジア	699	9%		783	9%		823	10%		40	
米州	1,347	18%		1,645	20%		1,707	20%		61	
高機能ガラス事業	388	5%	87	399	5%	71	466	6%	76	66	4
欧州	95	1%		106	1%		102	1%		△ 4	
アジア	276	4%		275	3%		347	4%		72	
米州	16	0%		18	0%		17	0%		△ 1	
その他	41	1%	△ 115	33	0%	△ 117	13	0%	△ 123	△ 19	△ 6
合計	7,635	100%	348	8,325	100%	359	8,404	100%	165	79	△ 194

建築用ガラス事業

(通期：減収・減益 1-3月期：減収・増益)

欧州を中心に販売数量減少と販売価格低下により、前年度比で減収減益。
太陽電池パネル用ガラスの需要は堅調に推移、米国新設備で生産開始



(億円)	1-3月期 (3か月)			通期 (12か月)		
	2024年 3月期	2025年 3月期	差異	2024年 3月期	2025年 3月期	差異
売上高	973	889	△ 84	3,718	3,630	△ 88
欧州	344	310	△ 34	1,415	1,254	△ 162
アジア	269	289	20	1,096	1,197	101
米州	360	290	△ 70	1,206	1,180	△ 27
営業利益	29	49	20	291	136	△ 155

欧州 (通期：減収・減益 1-3月期：減収・減益)

- 経済活動の減速に伴い販売価格の低下が継続するが、投入コスト減少により一部軽減
- ドイツのフロート窯の2基生産停止により固定費削減 (2024年6月に1基、2025年1月に1基停止)
- 1-3月期は、販売価格の改善により回復の兆し

アジア (通期：増収・増益 1-3月期：増収・増益)

- 日本では販売数量が減少したが、販売価格は安定して推移
- 太陽電池パネル用ガラスの需要は堅調

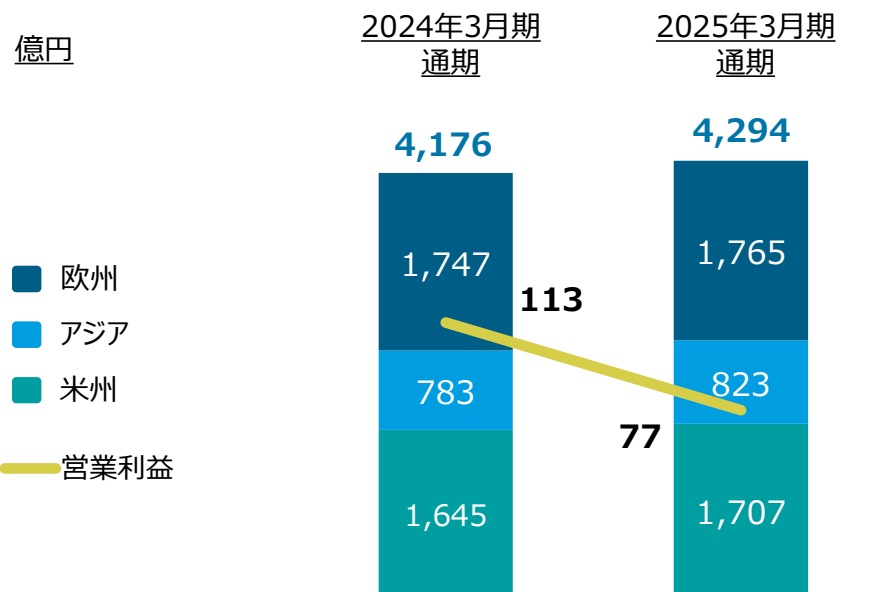
米州 (通期：減収・減益 1-3月期：減収・増益)

- 北米は商業用不動産市場の需要軟化が継続し、販売価格が低下、販売数量も減少
- 南米は需要減少に伴い販売数量減少だが、販売価格は堅調
- 太陽電池パネル用ガラスの需要は堅調。1-3月期から米国の新設備で生産を開始

自動車用ガラス事業

(通期：増収・減益 1-3月期：減収・増益)

円安による影響もあり前年度比で増収。人件費等その他コスト上昇および資産稼働率低下により前年度比で減益だが、1-3月期はアジアおよび米州での販売数量、販売価格改善により増益



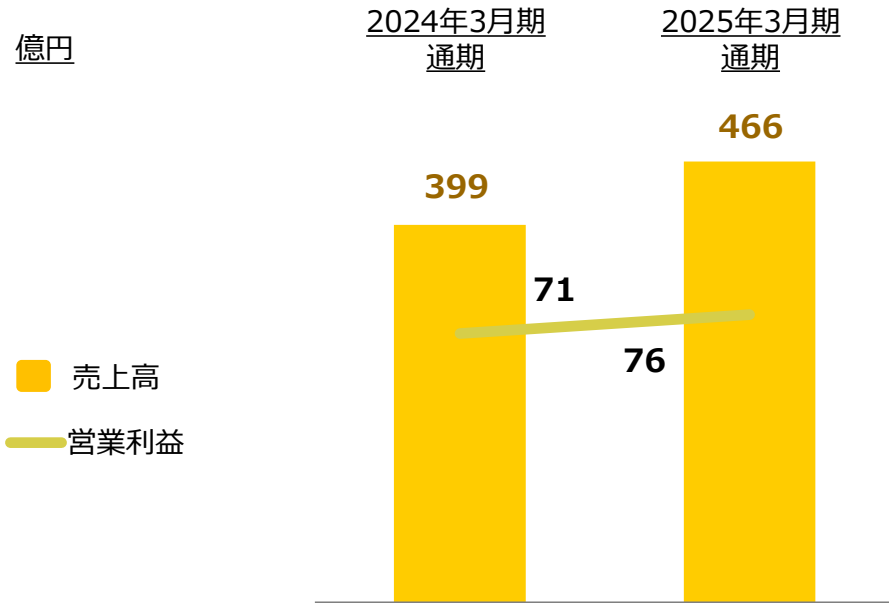
欧州 (通期：増収・減益 1-3月期：減収・増益)
 アジア (通期：増収・増益 1-3月期：増収・増益)
 米州 (通期：増収・減益 1-3月期：減収・増益)

- 販売数量は、欧州での自動車生産減少、アジアと北米の一部取引先での生産停止の影響を受けたが、1-3月期は改善
- 原材料およびその他コスト増加を転嫁するための価格交渉がさらに進捗
- 北米では生産効率の一時低下の影響が継続するが、改善中
- ドイツ工場（2025年1月24日公表）等欧州での生産体制見直しを継続
- 引き続きコスト削減、高付加価値製品の拡大、価格改善を推進

(億円)	1-3月期 (3か月)			通期 (12か月)		
	2024年 3月期	2025年 3月期	差異	2024年 3月期	2025年 3月期	差異
売上高	1,117	1,105	△ 12	4,176	4,294	119
欧州	476	468	△ 8	1,747	1,765	18
アジア	188	210	21	783	823	40
米州	453	428	△ 25	1,645	1,707	61
営業利益	20	51	30	113	77	△ 37

高機能ガラス事業 (通期：増収・増益 1-3月期：増収・増益)

売上高は多くの事業で需要の回復が継続し増加。
営業利益はその他コスト増加の影響を受けたが前年度からやや増加



- ファインガラスでは、一部製品で販売数量/構成が改善
- プリンター用レンズは、需要が堅調に推移
- グラスコードは補修用市場での強い需要が継続
- メタシャイン® は化粧品向けで増加

(億円)	1-3月期 (3か月)			通期 (12か月)		
	2024年 3月期	2025年 3月期	差異	2024年 3月期	2025年 3月期	差異
売上高	103	104	1	399	466	66
営業利益	15	19	4	71	76	4

2. 2026年3月期 業績予想

2026年3月期 業績予想

米国関税政策の不確定要素はあるが、欧州市場の緩やかな改善に伴う通期純利益への転換を予想。
利益改善のためのあらゆる施策を、グループ横断で実施

(億円)	2025年3月期 実績		2026年3月期 予想		増減	
	上期	通期	上期	通期	上期	通期
売上高	4,224	8,404	4,200	8,500	△ 24	96
営業利益	102	165	100	310	△ 2	145
個別開示項目 (純額)	△ 0	△ 52	10	10	10	62
個別開示項目後営業利益	102	112	110	320	8	208
金融費用 (純額)	△ 126	△ 253	△ 130	△ 270	△ 4	△ 17
持分法による投資利益	25	55	30	60	5	5
税引前利益 (△損失)	2	△ 85	10	110	8	195
当期利益 (△損失)	△ 34	△ 135	△ 20	40	14	175
純利益 (△損失)*	△ 39	△ 138	△ 30	20	9	158

2026年3月期 業績予想の前提

グループ	米国関税政策による不確定要素はあるが、欧州市場は下期以降緩やかに改善し通期純利益への転換を予想。 グループ全体でのさらなるコスト削減等、早期の利益改善に向けてあらゆる施策を実施 ● 主要通貨について2025年3月期より円高を見込む ● エネルギー価格や原材料価格は上昇、インフレによる人件費等その他コスト増加も継続 ● 米国関税政策の動向を注視 ● コスト削減、高付加価値製品拡大、価格改善を継続
建築用ガラス	欧州市場は下期以降緩やかに改善。太陽電池パネル用ガラスで好調が継続 ● 欧州：フロート窯生産停止によるコスト削減と販売価格上昇が寄与 ● アジア：日本では販売価格が安定して推移 ● 北米：経済見通しの不透明に伴い需要減少の可能性。米国の関税政策を含む経済動向を注視 ● 南米：アルゼンチンの超インフレに伴うコスト上昇を価格転嫁で吸収 ● 太陽電池パネル用ガラス：堅調な需要が継続、米国の新設備における生産開始が貢献
自動車用ガラス	コスト増加の影響が続くが、販売価格改善交渉を継続。 米国関税政策による米国向け自動車生産に対する需要減少の影響の可能性 ● 自動車需要を背景に販売数量の回復は続くが、ペースは鈍化 ● 米国関税政策による米国向け自動車生産に対する需要動向を注視の一方、競合の製品に対して高い税率が適用されることで米国補修用市場において比較的優位となる可能性 ● 欧州での生産体制見直しに伴うコスト削減が寄与 ● 引き続きコスト削減、高付加価値製品拡大、価格改善により収益性改善を目指す
高機能ガラス	多くの事業で需要は堅調に推移。コスト増加の影響を販売数量および販売価格の改善で吸収 ● 各事業で前年度に回復した需要が堅調に推移し、特にファインガラスで製品構成が改善

3. 米国関税政策の影響

米国関税政策の影響

ガラス製品は基本的には地産地消。

先行きが不透明だが、引き続き政策動向を注視しつつ価格転嫁等により対応

1. 売上高に対する影響

(1) 建築用

- 米国内では経済先行き不透明に伴う投資控え、需要減少の可能性
- 太陽電池パネル用ガラスは米国内向けは基本的には米国で生産、一方で競合の中国製品には高い税率の適用

(2) 自動車用

- 新車用
米国向けの自動車生産に対する需要減少の影響を受ける可能性
- 補修用
メキシコで生産する一部製品の価格上昇に伴う需要減少の可能性、一方で競合の中国製品には高い税率の適用

2. コストに対する影響

- 原燃材料コストが増加する可能性はあるが、価格転嫁により軽減

4. 中期経営計画「2030 Vision : Shift the Phase」 の進捗状況

「2030 Vision : Shift the Phase」財務目標の進捗状況

欧州経済減速の影響を大きく受ける。

引き続き収益性を向上させキャッシュ創出力を高め、財務基盤を改善することに注力

		2027年3月期 目標	2030年3月期 目標	2025年3月期（通期） 実績
収益性（P/L）	営業利益	640億円		165億円：主に欧州経済減速の影響を受ける。 欧州の建築用と自動車用ガラス事業以外は計画通り
	営業利益率（ROS）	7%	10%以上	2.0%：第3四半期から0.3pt改善
キャッシュ創出（C/F）	フリー・キャッシュ・フロー	270億円		100億円：営業減益だが運転資本の改善により フリー・キャッシュ・フローはプラス
財務基盤の安定化 （B/S）	有利子負債	4,420億円		5,284億円：前期末から184億円増加
	自己資本比率	15%		10.5%：前期末から1.9pt低下

「2030 Vision : Shift the Phase」4つの「D」の進捗状況

中期経営計画と4つの「D」に対するコミットメントは市場の低迷の影響を受けず不変。
リソースを柔軟に確保しつつ戦略の推進を継続

1. Business Development

- 米国オハイオ州ロスフォードの既存フロートラインの転換工事が完了、太陽電池パネル用ガラスの生産を開始
- 欧州の建築用ガラス事業（ダウンストリーム、板ガラス加工工程）において、脱コモディティ製品強化を推進
- ペロブスカイト太陽電池市場の開拓に向け、グループ横断の運営委員会を設置



2. Decarbonization

- 太陽電池パネル用ガラスの生産能力増強は、二酸化炭素排出量削減に貢献しつつ業績改善に寄与

3. Digital Transformation

- ERPシステムの統合に向けてパイロット版の提供を一部地域で開始

4. Diverse Talent

- 女性管理職比率は2024年3月期の16.8%から2025年3月期に18.8%に上昇
- 人事情報システム構築について、現状分析および要件定義の策定が完了

4. 欧州の事業環境と施策

欧州の事業環境と施策

欧州では、建築用ガラス事業および自動車用ガラス事業ともに付加価値製品の需要は中長期的に拡大。コスト削減、付加価値製品の強化による脱コモディティ製品化により対応

1. 欧州の事業環境

- 直近ではインフレ拡大、高金利の継続に伴う経済減速の影響を大きく受けて需要が減少
- 金利の低下が始まっており、それに伴う段階的な経済回復を期待
- 1-3月期は資産稼働率の改善等もあり、ガラス価格が上昇する等回復の兆し
- 建築用ガラス事業では、エネルギー効率改善のためのリノベーション需要は中長期的に拡大
- 自動車用ガラス事業では、自動車生産台数の緩やかな改善に伴い需要が回復

2. 施策～「2030 Vision : Shift the Phase」の「Business Development」に基づく脱コモディティ製品化

- 建築用ガラス事業では、アップストリーム（板ガラス生産工程）の削減およびダウンストリーム（板ガラス加工工程）の脱コモディティ製品強化
- 自動車用ガラス事業では、生産体制の見直し等によるフットプリントのさらなる適正化やオペレーションコストの削減による徹底的な収益性改善、および付加価値製品の拡大と製品価値を反映した販売価格の改善

欧州の事業環境と施策

3. 主な施策

(1) 建築用ガラス事業でのアップストリーム削減および自動車用ガラス事業でのコスト削減

事業	国	概要	公表日	実施時期	コスト削減効果		
					年間	2025年3月期 (実績)	2026年3月期 (予想)
建築用 ガラス	英国	フロート板ガラスと型板ガラスの 溶融窯を共用化	2023年4月21日	2025年3月	約4億円	-	約3億円
	ドイツ	バイアハマー工場の フロート窯1基の生産停止	2024年3月19日	2024年6月	約20億円	約15億円	約20億円
	ドイツ	バイアハマー工場の 定期修繕および生産再開延期	-	2025年 4月～6月	約8億円	-	約5億円
	ドイツ	グラートベック工場の フロート窯1基の生産停止	2024年10月10日	2025年1月	約30億円	約5億円	約30億円
自動車用 ガラス	ドイツ	ヴィッテン工場の 生産体制見直し	2025年1月24日	2025年 6月～8月	約11億円	-	約5億円
	イタリア	サン・サルヴォ工場の 生産体制見直し	-	2025年6月 ～2026年3月	約10億円	-	約5億円

欧州の事業環境と施策

(2) 建築用ガラス事業でのダウンストリームの脱コモディティ製品化

概要	国	実施時期	進捗状況
複層ガラス、トリプル複層ガラス	主にポーランド	実施中	年率5%増加を目指して計画通り進捗中
先進的なコーティング技術を活用した製品低放射（Low-E）ガラス等	英国、ポーランド	実施中	年率4%増加を目指して計画通り進捗中
大型ラミネート合わせガラス	ドイツ	2025年12月	計画通り進捗中

(3) 自動車用ガラス事業での付加価値製品の拡大および販売価格の改善

	概要
新車用	ヘッド・アップ・ディスプレイ付きフロントガラス等先進運転支援システム（ADAS）に対応したガラス、赤外線反射ガラスや調光機能付き大型ルーフガラス等車内の快適性向上や電気自動車に対応したガラス等、付加価値製品の拡大とその製品価値を反映した販売価格の改善
補修用	新車用ガラスにおいて付加価値製品の採用が拡大することで、補修用においてもその代替に伴い付加価値製品が増加および製品価値を反映した販売価格の改善。コモディティ製品については中国の関連会社を活用し付加価値製品に注力。新車用と補修用を組織的に統合することにより、一貫して需要に対応

6. まとめ

まとめ

1. 2025年3月期 通期決算概要

- ・ 欧州経済減速の影響が建築用ガラス事業と自動車用ガラス事業において継続。
欧州の経済回復の兆しもあり、売上高および営業利益は通期予想通りに着地
- ・ 欧州の建築用および自動車用ガラス事業で販売価格と稼働率が低下。人件費等の増加によりその他コスト増加も継続
- ・ 自己資本比率は10.5%と前期末比で1.9pt低下。
フリー・キャッシュ・フローはプラスだが、有利子負債は現預金見合いで前期末比で増加

2. 2026年3月期 業績予想

- ・ 米国関税政策による不確定要素はあるものの、欧州市場は下期以降緩やかに改善し通期純利益への転換を予想
- ・ 欧州での生産体制見直しを中心にグループ全体でのさらなるコスト削減等、早期の利益改善に向けてあらゆる施策を推進

3. 米国関税政策の影響

- ・ ガラス製品は基本的には地産地消。
先行きが不透明だが、引き続き政策動向を注視しつつ価格転嫁等により対応

4. 中期経営計画「2030 Vision : Shift the Phase」の進捗状況

- ・ 欧州経済減速の影響を大きく受けるが、引き続き収益性を向上させキャッシュ創出力を高め、財務基盤を改善することに注力
- ・ 中期経営計画と4つの「D」に対するコミットメントは市場の低迷の影響を受けず不変であり、戦略の推進を継続

5. 欧州の事業環境と施策

- ・ 欧州では、建築用ガラス事業および自動車用ガラス事業ともに付加価値製品の需要は中長期的に拡大。
コスト削減、付加価値製品の強化による脱コモディティ製品化により対応

当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場の経済環境および競争環境、製品需給、為替・金利相場、原燃料市場環境、法規制の変動等がありますが、これらに限定されるものではありません。

日本板硝子株式会社

- 連結損益計算書 四半期別推移
- 事業部門別・地域別業績 四半期別推移
- セグメント情報
- 地域別売上高および営業利益
- 個別開示項目
- 為替レート・為替感応度
- 減価償却費・資本的支出・研究開発費
- 主なニュースリリース

連結損益計算書

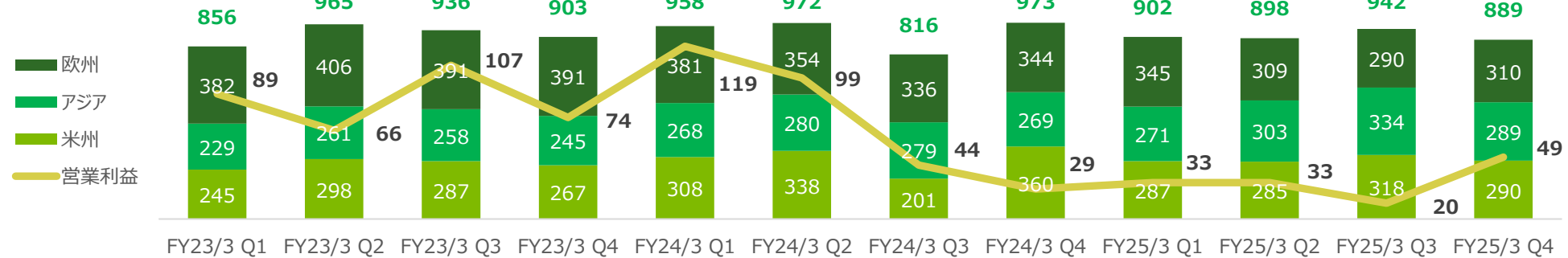
四半期別推移

(億円)	2023年 3月期				2024年 3月期				2025年 3月期			
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期
売上高	1,779	1,977	1,906	1,973	2,080	2,122	1,925	2,198	2,164	2,060	2,075	2,104
営業利益 (△損失)	83	62	97	107	146	115	61	38	48	55	6	57
営業利益率	4.6%	3.1%	5.1%	5.4%	7.0%	5.4%	3.2%	1.7%	2.2%	2.7%	0.3%	2.7%
個別開示項目 (その他)	23	△ 473	10	△ 12	△ 8	11	6	△ 8	2	△ 2	△ 25	△ 27
個別開示項目後営業利益 (△損失)	106	△ 411	107	94	138	125	67	29	49	53	△ 19	30
金融費用 (純額)	△ 28	△ 37	△ 48	△ 61	△ 64	△ 77	△ 64	△ 78	△ 60	△ 66	△ 56	△ 71
持分法適用会社に対する金融債権の 減損損失の戻入益 (△損失)	-	-	-	-	37	-	-	-	-	-	-	-
持分法による投資利益	22	10	21	20	10	12	15	14	11	14	12	18
持分法投資に関する その他の利益 (△損失)	△ 12	5	△ 4	△ 4	11	△ 0	△ 1	△ 0	-	-	-	-
税引前利益 (△損失)	88	△ 434	77	49	133	61	17	△ 35	0	1	△ 64	△ 23
当期利益 (△損失)	33	△ 403	22	38	75	30	36	△ 32	27	△ 61	△ 59	△ 42
純利益 (△損失)*	24	△ 412	17	34	70	27	37	△ 29	24	△ 63	△ 62	△ 38
EBITDA	180	161	202	207	253	226	170	168	175	175	130	177

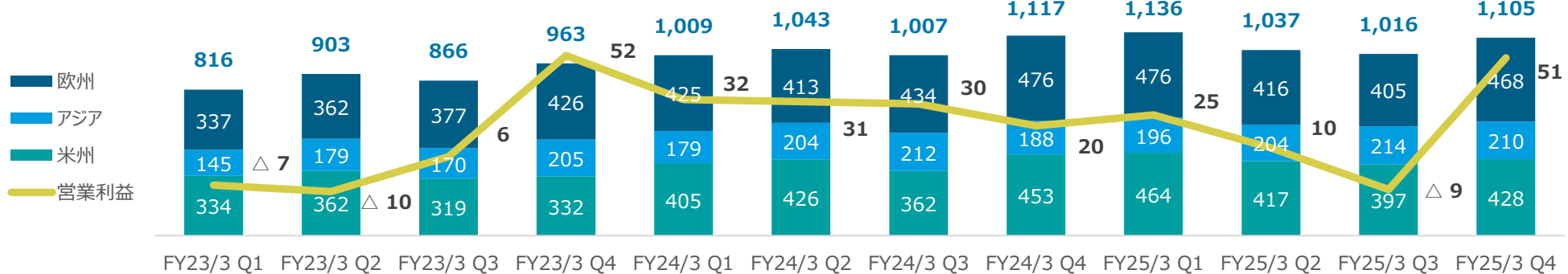
事業部門別・地域別売上高および営業利益 四半期別推移

単位：億円

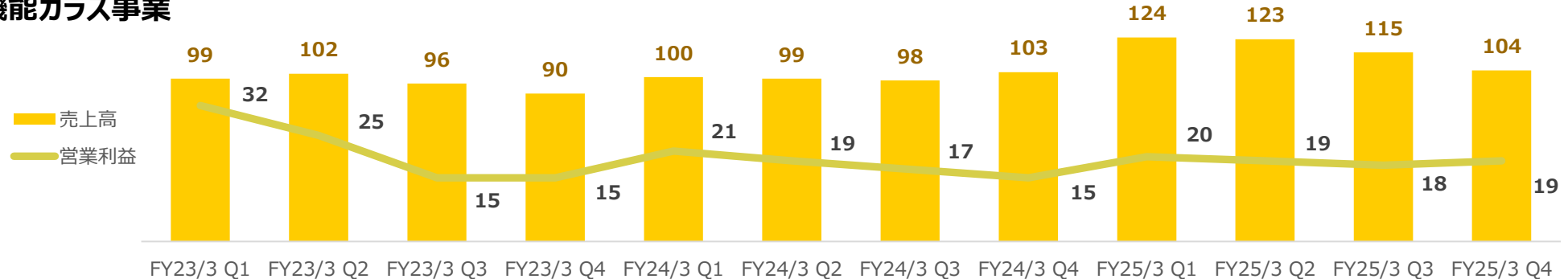
建築用ガラス事業



自動車用ガラス事業



高機能ガラス事業



セグメント情報

(億円)	2023年3月期					2024年3月期					2025年3月期				
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	累計	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	累計	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	累計
売上高: 建築用ガラス	856	965	936	903	3,659	958	972	816	973	3,718	902	898	942	889	3,630
欧州	382	406	391	391	1,571	381	354	336	344	1,415	345	309	290	310	1,254
アジア	229	261	258	245	992	268	280	279	269	1,096	271	303	334	289	1,197
米州	245	298	287	267	1,096	308	338	201	360	1,206	287	285	318	290	1,180
営業利益	89	66	107	74	336	119	99	44	29	291	33	33	20	49	136
売上高: 自動車用ガラス	816	903	866	963	3,547	1,009	1,043	1,007	1,117	4,176	1,136	1,037	1,016	1,105	4,294
欧州	337	362	377	426	1,502	425	413	434	476	1,747	476	416	405	468	1,765
アジア	145	179	170	205	699	179	204	212	188	783	196	204	214	210	823
米州	334	362	319	332	1,347	405	426	362	453	1,645	464	417	397	428	1,707
営業利益	△ 7	△ 10	6	52	41	32	31	30	20	113	25	10	△ 9	51	77
売上高: 高機能ガラス	99	102	96	90	388	100	99	98	103	399	124	123	115	104	466
欧州	21	25	22	27	95	25	26	26	30	106	28	23	23	28	102
アジア	75	73	70	58	276	71	69	67	69	275	91	95	89	72	347
米州	4	5	4	4	16	4	5	5	4	18	5	5	3	4	17
営業利益	32	25	15	15	87	21	19	17	15	71	20	19	18	19	76
売上高: その他	8	7	9	18	41	13	8	5	6	33	2	2	3	6	13
営業利益	△ 31	△ 19	△ 31	△ 34	△ 115	△ 27	△ 34	△ 30	△ 26	△ 117	△ 31	△ 7	△ 23	△ 62	△ 123
売上高: 合計	1,779	1,977	1,906	1,973	7,635	2,080	2,122	1,925	2,198	8,325	2,164	2,060	2,075	2,104	8,404
営業利益	83	62	97	107	348	146	115	61	38	359	48	55	6	57	165

地域別売上高および営業利益

(億円)	2024年3月期 通期			2025年3月期 通期			増減	
	売上高	%	営業利益 (△損失)	売上高	%	営業利益 (△損失)	売上高	営業利益 (△損失)
欧州	3,269	39%	18	3,121	37%	△ 206	△ 148	△ 224
アジア	2,155	26%	280	2,367	28%	353	212	73
米州	2,870	34%	178	2,903	35%	141	33	△ 37
その他 *	33	0%	△ 117	13	0%	△ 123	△ 19	△ 6
合計	8,325	100%	359	8,404	100%	165	79	△ 194

* 「その他」セグメントの売上高、営業利益は地域別に区分していない。

個別開示項目

(億円)	2024年3月期 通期	2025年3月期 通期
非流動資の売却による収益	-	47
子会社および事業の売却による利益	10	4
引当金の戻入益	-	2
非流動資産の減損損失の戻入益	2	0
係争案件の解決に係る収益 (△費用) 純額	9	0
棚卸資産の評価減	△ 2	△ 2
非流動資産の減損損失	△ 7	△ 8
のれんの減損損失	-	△ 14
リストラクチャリング費用	△ 9	△ 82
その他	△ 1	△ 0
個別開示項目 純額	1	△ 52

為替レート・為替感応度

期中平均レート

	2023年 3月期				2024年 3月期				2025年 3月期				2026年 3月期
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	見通し
英ポンド	163	163	164	163	172	177	179	182	197	195	195	194	191
ユーロ	138	139	140	141	150	153	154	157	168	165	164	163	159
米ドル	129	134	137	135	138	140	143	144	156	152	152	152	143
ブラジル・リアル	26.4	26.4	26.5	26.3	27.7	28.6	29.0	29.4	29.9	28.3	27.5	27.1	26.5
アルゼンチン・ペソ	超インフレ会計の適用により、期末レートのみ使用												

期末レート

	2023年 3月期				2024年 3月期				2025年 3月期			
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4
英ポンド	165	161	160	165	183	182	181	191	204	191	196	193
ユーロ	142	141	140	145	158	157	157	163	173	159	162	161
米ドル	136	145	132	133	145	148	143	152	162	143	157	148
ブラジル・リアル	26.2	26.7	25.7	26.2	29.8	29.5	29.2	30.4	29.3	26.2	25.3	25.9
アルゼンチン・ペソ	1.09	0.98	0.76	0.64	0.57	0.42	0.18	0.18	0.18	0.15	0.15	0.14

為替感応度

他の前提に変動がない条件で、
為替レートが他の通貨に対して
1%変動した場合の影響額

	2025年 3月期
資本	37.0億円
当期利益	1.0億円

減価償却費・資本的支出・研究開発費

(億円)	2024年3月期 通期	2025年3月期 通期	2026年3月期 見通し
減価償却費	459	494	520
資本的支出	582	628	440
通常投資	414	323	260
戦略投資	168	305	180
研究開発費	99	99	115
建築用ガラス事業	34	35	40
自動車用ガラス事業	31	30	34
高機能ガラス事業	8	9	11
その他	26	25	29

2024年11月～2025年5月 主なニュースリリース

(<https://www.nsg.co.jp/ja-jp/media>)

2024年11月29日	あおぞら銀行とサステナビリティ目標達成に連動した借入契約を締結
2024年12月3日	ガラス端材を活用しCO2排出量を最大30%削減するリサイクル光輝材「METASHINE ECO™」を開発
2024年12月13日	2024年度 全上場企業ホームページ充実度ランキングで最優秀サイトに選ばれました
2025年1月10日	アジア最大級のエレクトロニクス開発・実装展「第39回 ネプコンジャパン」に出展
2025年1月16日	米国で太陽電池パネル用ガラス生産設備が稼働
2025年1月21日	舞鶴市消防団に女性団員用制服を寄贈
2025年1月24日	ドイツの自動車用ガラス生産体制見直しおよび個別開示項目費用の計上について
2025年2月7日	執行役等の報酬の自主返上について
2025年2月7日	日本板硝子が中央区、松竹と「災害情報の発信等に関する協定」を締結
2025年2月14日	CDPより2年連続で「気候変動 A-」評価を取得
2025年2月25日	公益財団法人 日本板硝子材料工学助成会 第42回 研究成果発表会を開催
2025年3月12日	「健康経営優良法人2025（大規模法人部門）」に6年連続で認定
2025年3月18日	中国最大・最先端のマシンビジョンが集う展示会 Vision China (Shanghai) 2025に出展
2025年3月26日	世界最大規模の化粧品原料展示会「in-cosmetics Global 2025」に出展
2025年4月3日	大阪公立大学イノベーションアカデミー スマートエネルギー棟に入居
2025年4月24日	「第12回化粧品産業技術展/CITE JAPAN 2025」に出展

NSG

GROUP